学校番号	1009

令和３年度　地歴公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　新倫理　新訂版（清水書院）						
副教材等	アプローチ　倫理資料（とうほう）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界の思想（哲学・宗教）を学習し、人間として社会の中で生きていく「心・精神」を学びます。
・青年期の課題・現代の諸課題についても考察します。

２　学習の到達目標

・世界の諸思想・哲学的思考の考察を、現実の課題を解決する際の手段と出来るようにする。
・具体的には生命倫理、環境倫理、情報化、異文化理解、福祉の諸課題を解決するための思想的バックボーンを構築することである。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め，人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに，これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ，人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに，良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し，その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択して，これらを自己形成に資するように活用し，学び方を身につける	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などにかかわる基本的な事柄を，生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	ワークシート グループワーク	定期考査 ワークシート グループワーク	定期考査 ワークシート グループワーク	定期考査 ワークシート グループワーク

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	現代に生きる自己の課題	第１章　人間とは何か	○				a:生きることの意味についていろいろな視点から考え，今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
						○	d:人間の特質とは何かを理解する。	
		第２章　青年期の課題と自己形成		○			b:自分の生きている青年期はどのような位置にあり，どのような発達課題があるのかを考える。	
		１　青年期の意義			○		c:高校生の意識調査の結果を分析し，そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取る。	
		２　自己の理解に向けて						
		３　豊かな自己実現のために				○	d:青年期の心身の特徴を把握するとともに，青年期の悩みの心理的特徴に気づき，悩むことが自己形成につながることを理解する。	
						○	d:自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え，粘り強く欲求を抑制し，調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。	
	人間としての自覚と生き方	第１章　人生における哲学	○				a:ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより，古代ギリシャの思想は，私たちにとってどのような意味を持つのかを考える。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		１　神話から哲学へ						
		２　自然哲学の誕生とソフィスト		○			b:ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか，両者を比較しながら考察する。	
		３　真の知への道						
		４　理想主義的なあり方						
		５　現実主義的なあり方		○			b:アリストテレスの現実主義の立場を，プラトンのイデア論と対比しながら理解する。	
		６　幸福をめぐる問い						
					○		c:「ソクラテスの言葉」から「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取る。	
						○	d:ポリス中心の考え方にかわり，個人の内面的平安を求める思想が現れたことを理解する。	

	現代経済と福祉の向上	第２章　人生における宗教 第１節　キリスト教 １　ユダヤ教 ２　イエスの思想 ３　世界宗教への展開	○ ○	 ○	 ○	 ○	a:哲学や宗教の意義を考え，先人の生き方を手がかりに，どのように生きていくべきかを学ぶ。 a:キリスト教信仰の構造に関心を持ち，キリスト教的な生き方や人間観の特徴を，興味を持って探究する。 b:キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多角的・多面的に考察する。 c:イエスの思想をユダヤ教と対比させて，神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		第２節　イスラーム	○		○	○	a:メッカの方向を調べるなどして，イスラームの基本的教義（六信・五行）を実感する。d:世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ，宗教とは何かについて，意欲的に考察する。 c:『クルアーン』を読み，日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。 d:イスラームはどのようにして誕生したか，ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか，ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。	
		第３節　仏教 １　バラモン教 ２　仏陀の思想 ３　仏教のその後の展開	○	 ○	 ○	 ○ ○	a:ゴータマの教えは，深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 b:日本に最もなじみの深い宗教である仏教の教えを知り，仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 c:「ゴータマの言葉」を味わい，仏教の基本である，人間どうしが支え合いながら生きていくという視点を読み取る d:ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。 d:インドの人々はどのような死生観を持っているかを理解する。	
		第３章　人生の知恵 １　孔子と儒家の思想 ２　儒教の展開 ３　道家の思想	○	 ○	 ○	 ○	a:陰陽五行や風水など，身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り，中国の思想に対する興味・関心を高める。 b:中国の思想は，歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り，私たちの現在や未来にどのよう関わっているのかを考察する。 c:「『論語』の中の孔子の言葉」から，中国の思想の根本を読み取る。 d:中国の人々の自然観・人生観を理解する。	
		第４章　人生における芸術		○			b:西洋と東洋の源流にある思想を比較して，人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ，発表や討論をする。	

後期	現代社会と倫理	第１章　現代の倫理的課題				○	d:近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		第２章　現代に生きる人間の倫理 第１節　人間の尊厳 １　自己肯定の精神 ２　宗教観の転換 ３　人間の偉大と限界	○	○ ○			a:人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して，西洋の近代人は，人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。 b:現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 b:近代ヨーロッパの社会契約説を通して，民主社会の成り立ちを理解し，民主社会を実現した社会契約の思想について，多面的・多角的に考察する。	
					○		c:先哲の思想の中から，人間の尊厳に関わる資料を収集し，活用する。	
		第２節　自然や科学技術と人間とのかかわり １　自然への目と科学的なものの見方 ２　事実と経験の尊重 ３　理性の光	○	○			a:ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し，科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 b：ベーコンやデカルトの著作を読み，自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。	
						○	d:経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを，自己の課題とつなげて理解する。	
		第３節　民主社会における人間のあり方 １　民主社会の原理 ２　人権思想の展開			○		c:ホッブズ，ロック，ルソーに関する資料を収集し，社会契約の思想の違いを整理する。	
						○	d:現在の政治的自由は，ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。	

	現代社会と倫理	第４節　自己実現と幸福 １　人格の尊重と自由 ２　自己実現と自由 ３　幸福と功利 ４　創造的知性と幸福

	国際社会に生きる日本人の自覚	第１章　日本の風土と外来思想の受容 第１節　日本の風土と伝統 １　日本の風土と人々の生活 ２　古代の人々の考え方 第２節　仏教の伝来と隆盛 １　仏教の移入 ２　仏教の土着化 第３節　儒教の日本化 １　儒教の伝来と朱子学 ２　陽明学 ３　古学 第４節　日本文化と国学 １　古典美の再発見 ２　国学 第５節　近世庶民の思想 １　都市庶民の思想 ２　農民の思想 第６節　西洋近代思想の受容 １　西洋文明との接触 ２　啓蒙思想と民権論 ３　キリスト教の受容 ４ 国家主義の高まりと社会主義 ５　近代的自我の成立 ６　近代日本哲学の成立 ７ 近代日本の思想傾向への反省 第２章　現代の日本と日本人としての自覚	○ ○

	現代の諸課題と倫理	第１章　生命と倫理			○		c:生命をめぐって問題となっている事例を収集し，主体的に選択して活用し、探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
				○			b:クローン技術，遺伝子組換え，脳死臓器移植，安楽死と尊厳死，医療における自己決定権などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察する。	
						○	d:現代社会の諸課題の知識を身につける	
		第２章　環境と倫理	○				a:地球環境問題，環境保護活動，循環型社会をめざす取り組み，将来の世代に対する責任などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	
			○				a:地球規模だけでなく，身近なところで起こっている環境問題について調べ，有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか，環境倫理の考え方はどのようなものか，などについて考察する。	
						○	d:現代社会の諸課題の知識を身につける	
		第３章　現代の家族とその課題	○				a:核家族化や少子化の進行に伴う家族関係の変容，男女共同参画時代の夫婦のあり方，高齢者と地域社会のあり方などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	
						○	d:現代社会の諸課題の知識を身につける	
		第４章　地域社会の変容と共生		○			b:少子高齢社会の問題点を，家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか，それらに期待される役割とはどういったものか，などについて考察する。	
					○		c:家族・地域社会をめぐって問題となっている事例を収集し，主体的に選択して活用し、探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。	
						○	d:現代社会の諸課題の知識を身につける	
		第５章　情報社会とその課題	○				a:情報社会を生きていくために必要な能力，情報モラルに関する問題などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	
				○			b:探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。	
					○		c:高度情報化やネットワーク社会をめぐって問題となっている事例を収集し，主体的に選択して活用し、探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。d:現代社会の諸課題の知識を身につける	

	現代の諸課題と倫理	第６章　グローバル化の時代と倫理	○				a:異文化を理解するためには，社会全体でどのような取り組みが必要かを考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
			○				a:各国間の経済格差の解消，自立を支援するための援助，難民や女性・子どもの人権保障，核兵器の廃絶など，人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ，地球市民としての生き方を探究する。	
				○			b:多様な外国人と交流する際の倫理的課題は何か，などのテーマから探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	
					○		c:グローバル化が進む現代において，異文化を理解するにあたり問題となっている事例を収集し，主体的に選択して活用する。	
						○	d:現代社会の諸課題の知識を身につける	
		第７章　人類の福祉と国際平和		○			b:探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。	
				○			b:頻発する地域紛争や民族紛争，難民問題，戦争と核兵器の廃絶の問題，などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	
				○			b:探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。	
					○		c:人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し，主体的に選択して活用する。	
						○	d:現代社会の諸課題の知識を身につける	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。